



だより



R6.7.16 Vol.15

鳴かぬなら…

『鳴かぬなら鳴かせてみせようホトギス』これは秀吉だったでしょうか。戦国武将！信長、秀吉、家康のそれぞれの性格を表す有名な三文句がありますよね。ふとこんなロゴのTシャツを見つけました。『鳴かぬならそういう種類のホトギス』ジワりました(笑)関わる気一切無し！ある意味、割り切りの気持ち良さ！反面、必要以上に関わることをしない希薄さ、冷たさも。が、もう一度、見方を変えると、「まっそれならそれでいいじゃん！」と全てを受け入れてくれているようにも思えてきます。歳を重ねれば重ねるほど、こうあるべきという考え方に知らない間に縛られていることがあります。先述の武将の三文句も、根底にあるのは



ホトギスは鳴くものという先入観ですよ。先入観を取っ払うと自分自身が楽になることも結構あるんじゃないでしょうか？

一番大事にしたいこと

思いやりの心、やり抜く力、あきらめない心、自制心。そんな力も今は**学力**として捉えられています。むしろその力こそが、これからの時代を生き抜く子供たちの糧や支えになるのではないかと思います。それは今に始まったことではなく、昔から、知・徳・体といった言葉で表されていた徳の部分です。テストがあるわけではないので、数値化できる能力ではありません。

この力は、**人と関わりの中で育成されます**。例えば、自分の言動を相手はどう受け取るのか？これは大人でも予測するのは、なかなか難しいことです。ですから、子供も失敗の中で学んでいくでしょう。相手を傷つけるような言動は叱っていいと思います。数値化できないものだからこそ、**関わりの中、肌で学ばせていく**。もちろん、ほめるときはしっかりほめていきながら！一番大事にしたいことだと思います。

四方山話真穴 ver. 其の十五(ピッ！)

「ピッピッピッ ピッ」市内のスーパーでも増えてきましたね。『セルフレジ』初めて使うときはそれなりにドキドキ(笑)まだ近くに店員さんが待機していて戸惑っているお客さんのサポートをしている姿を見かけますが、直、無人化されるのでしょうか。無人の餃子店とかもありますよね。2015年にイギリスの経済学者が「10年後、今の職業の半分近くが消える。」と発表した研究が話題になりましたが、その波が寄せてきていることを実感します。

小さい頃、10円玉を3枚握りしめて、近くの駄菓子屋さんに毎日のように行っていました。「ごめんください！あれとこれとそれ…」ぐじを引いて駄菓子を買っていました。(カレーあられとか、タコ系についた飴玉とか、真っ黄色のゼリーとか…今思うと、怪しげなお菓子もありましたね…笑)「おばちゃん！ありがとう！」「はい ありがとう。またきてや。」そんなやりとりでした。店の奥にはいつも気難しそうなおっちゃんもおり、おばちゃんが出てきてくれることを幼気(いたいけ)な心いっぱい願っていました。

デジタル化とは体を動かさなくなることだといつかの便りに書きました。それと同時に関わりが消えていくことでもあると思います。人口が減少の一途を辿り、働き手が不足している日本においては理に合うことなのかもしれません。おそらく企業としても利潤追求において、合理的な判断なのでしょう。先述の研究では、銀行員も消える職業にリストアップされていました。言われてみれば、私自身、今現在、スマホアプリで銀行とのやり取りを行っています。「窓口へ行って…」という機会はほとんどなくなりました。

時代の流れに抗うことはできませんし、その恩恵を受けていることも否定できません。が、そんな中、一方では、無責任な罵詈雑言、誹謗中傷がネット上を跋扈(ばっこ)する昨今の社会、生身どうしの関わりが失われていく中で起こってしまうデジタル化の歪みであるように感じるのは私だけでしょうか？